

文化財科学Ⅱ

選択 2単位

藤澤 明

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では文化財を科学的な視点から読解し、材料・技法・環境に関する多様な情報を収集・分析して文化財研究の方法論を理解することを目的とします。

文化財が製作された背景には、構成する材料が入手可能であること、加工する道具があること、加工する技術があること、流通や販路が確保できていることが不可欠です。よって、文化財を対象に自然科学的手法を用いて研究することで、作られた当時の歴史的、文化的、民俗学的、技術的背景の一端を明らかにできます。

本授業では、これまでに文化財の科学的研究によってどんなことが分かって来たのか、世界の研究事例や論文を通して紹介します。これにより研究手法の多様性を学び、各自の修論研究をより高い次元で行うことを目指します。

2. 授業の到達目標

自然科学的調査で得られた結果を歴史研究成果と結び付け、議論できる能力を高めることを目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

2回のレポート課題(各50%)で評価します。課題の内容は、①各自の研究対象について自然科学的手法を取り入れることを検討、②その手法の問題点の考察になります。

4. 教科書・参考文献

教科書

早川泰弘・高妻洋成著、日本分析化学会編 文化財分析 共立出版

参考文献

日本文化財科学会 考古科学と自然科学 日本文化財科学会

東京文化財研究所 保存科学 東京文化財研究所

University of Oxford Archaeometry University of Oxford

5. 準備学修の内容

自然科学的調査には、一般化学、分析科学、材料科学の知識が必要です。各自の研究テーマに沿った理系書を利用して各自勉強してください。参考図書は個別に指示します。また本講義内で英語論文を取り扱います。事前に配付するので分らない英単語は調べてきてもらいます。

6. その他履修上の注意事項

文化財科学Ⅰを履修してから本授業の履修をおすすめします。ⅡはⅠとの連続した内容になります。

7. 授業内容

- 【第1回】 研究倫理と不正
- 【第2回】 文化財と分析科学
- 【第3回】 各材料の分析例ー絵画・壁画ー
- 【第4回】 各材料の分析例ー金属・ガラスー
- 【第5回】 材料分析による産地推定1
- 【第6回】 材料分析による産地推定2
- 【第7回】 材料分析による古代の製作技法の推定1(オンライン)
- 【第8回】 材料分析による古代の製作技法の推定2
- 【第9回】 状態調査による劣化機構の推定1
- 【第10回】 状態調査による劣化機構の推定2
- 【第11回】 多資料調査による統計的研究1
- 【第12回】 多資料調査による統計的研究2
- 【第13回】 植物遺存体調査による環境復元
- 【第14回】 動物遺存体調査による自然および生活環境復元
- 【第15回】 文化財研究の総合討論